

(6) 文化財の保存・活用

整理 No	6	評価単位名	文化財の保存・活用			
担当課	教育総務課	評価責任者	教育総務課長 山根 斎	担当係 グループ名	文化財係 地域・学校連携係	

事業の目的・目標

目的/ 根拠法令等	文化財の保存・活用を図る 文化財保護法、東京都文化財保護条例、豊島区文化財保護条例
目標	文化資源が適切に保護され、区民が文化財に親しんでいる

目標に対する達成見込み

達成度指標	算定式等指標 の説明	ベースライン (19年度)	20年度 見込み	ベースラインに 対する 達成見込み	目標値 (達成年度)	目標設定の考え方
埋蔵文化財調査報告書発行部数 (未報告件数)	年間発行部数	5部 (125件)	6部 (130件)	120%	10部 (25年度)	発掘した埋蔵文化財の処理が遅滞しているとともに、建築工事にもなう新規の発掘が加わるため目標値の大幅な引き上げが必要
文化財登録件数	年間登録件数	7件	6件	86%	8件 (21年度)	埋蔵文化財の登録のほかに、区内の有形・無形文化財の登録を増やして行く
文化財、啓発事業回数	年間実施回数	5回	7回	140%	8回 (21年度)	文化財講座(2回)・発掘現場見学会(1回)・地域見学会(1回)・ロビー展示(1回)・メトロ雑司が谷駅構内展示(年間)・体験会(2回)
みみずく資料館来館者数	年間来館者数	2,588人	2,700人	104%	2,800人 (21年度)	ふくろうグッズは3種類となり頒布数も増加している。来館者も増加傾向にある

主な取り組みと事業をとりまく社会状況

事業内容	国民的財産である貴重な文化財を大切に保存・活用するとともに、区民にできるだけ文化財に親しむ機会を提供できるようにするため、文化財に関する保護の普及を積極的に図ってゆく				
運営形態	直営	委託の内容			
主な取り組み内容		平成17年度	平成18年度	平成19年度	事業をとりまく社会状況
文化財保護審議会の運営		4回開催	4回開催	4回開催	・近年の社会や国民意識の変化を受け、埋蔵文化財保護行政における発掘調査の位置づけや、その実施に関する考え方、また今後の埋蔵文化財保護体制に対し、適切な整備が求められてきている。
文化財説明板の設置及び補修		3基	3基	3基	
文化財保護奨励金交付		65件	63件	64件	
埋蔵文化財発掘調査実績(立会調査)		39件	39件	66件	
埋蔵文化財発掘調査実績(試掘調査)		20件	11件	20件	
埋蔵文化財発掘調査実績(発掘調査)		9件	11件	16件	
埋蔵文化財出土遺物の保管場所の集約		7箇所	6箇所	4箇所	
区役所ロビー展示(見学者数)		約260名 (5日間)	約370名 (9日間)	約330名 (9日間)	
文化財講座の開催		2回(7日間)	2回(8日間)	2回(8日間)	
みみずく資料館開館日数		105日	104日	104日	
みみずく資料館来館者数		2,035人	2,431人	2,588人	

事業コスト

(単位:千円)

構成事務事業	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度 (計画)	重要度	今後の注力度
文化財保護審議会の運営	378	360	378	430	A	継続
文化財保護経費	20,230	1,978	2,232	3,660	A	継続
埋蔵文化財発掘調査経費	24,412	26,020	24,296	26,665	A	継続
埋蔵文化財収蔵経費	6,614	2,518	4,493	726	A	継続
みみずく資料館運営経費	1,784	2,349	1,923	1,939	A	継続
直接事業費計 A	53,418	33,225	33,322	33,420		(人件費の取扱い等)
人件費 (正規職員数)	(3.8)	(4.5)	(4.7)	(4.7)	事業費計上非常勤,社会教育指導員(1名)	
(非常勤等職員数)	(0.8)	(0.8)	(1.5)	(2.1)		
(事業費計上非常勤等職員数)	(0.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)		
人件費計 B	34,103	40,600	45,914	46,845		
支出計 C=A+B	87,521	73,825	79,236	80,265		
収入 国庫(都)支出金	15,840	7,875	7,500	7,250		
受益者負担分	8	5	0	7		
その他	2,230	2,233	2,457	1,453		
収入計 D	18,078	10,113	9,957	8,710		
一般財源充当額 E=C-D	69,443	63,712	69,279	71,555		

現状の評価

A.予想を上回って達成した場合 B.大体計画どおりにできた場合 C.理想の上体を下回っている場合

評価の視点	達成度	達成度及び今後の課題についてのコメント
適切性 (満足度、サービス水準)	B	・文化財に対しての区民の理解を深めるため、啓発事業を増やしてきている。参加者は多く、より多くの実施が望まれる。 ・埋蔵文化財の整理・報告書の作成が遅れ気味で、コンスタントに進んでいない。
効果性 (財務と施策水準の視点)	B	・埋蔵文化財事務における、発掘と整理・報告書作成のバランスが悪く、発掘埋蔵物の整理、報告書作成が遅れ気味になっている。
業務改善 (内部プロセスの視点)	B	・限られた人員のなかで、地上文化財の保護活用、埋蔵文化財の保護活用、埋蔵文化財の発掘と整理の事務配分のバランスを根本的に見直す必要がある
人材育成 (学習と成長の視点、人的資源の最大化)	B	・考古学関係の職員の確保、育成が必要

今後の取組みと予算への反映

	取組み内容	必要(不要)となる経費	影響額(千円)
重点・新規事項	・埋蔵文化財の整理・保管・報告書の作成の集中的な実施 ・発掘埋蔵文化財の保管基準の設定と保管場所の確保		
見直し事項	・事務配分バランスの見直し		

総合評価

現状の評価	A 成果をあげている (B) 普通 C 不十分
今後の事業の注力度	A 拡充 (B) 継続 C 縮小
< 上記判断の理由と今後の改革方針 >	
・文化財保護の制度目的とそれに必要な体制の整備、限られた人員のなかでの効果的な職務執行体制、事務処理基準(埋蔵文化財の発掘基準、登録・保管基準)等を根本的に見直す必要がある	